
藤原紀香アフガニスタン基金

2008年度・2009年度
活動報告書

社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



◇◇◇◇◇◇◇◇

1. アフガニスタンの現況

2009年、アフガニスタンは国際社会における政治と外交の両面において大きな節目を迎えている。政治面では、2009年8月20日に大統領選挙が行われる（09年7月現在）。今後、アフガニスタンがどのようにその国政と経済、社会の基盤を立て直していくかを国内外に示す重要なイベントになり得る。一方、外交面においては、米国の新政権はその外交戦略の重要課題のひとつに、アフガニスタンの治安回復と復興を掲げている。その戦略下では、軍事のみならず、民生支援による復興開発を重視し、且つ、パキスタンなどの周辺国からの協力を取りつけて包括的にアフガニスタンの治安維持に取り組んでいくフレームが組まれている。復興と平和の実現に向けて、アフガニスタンは新たな局面を迎えている。

◇◇◇◇◇◇◇◇

2. 教育復興支援の概要

2008年1月から2009年3月にかけて、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（SCJ）は姉妹組織の米国セーブ・ザ・チルドレン（SC/US）と英国セーブ・ザ・チルドレン（SC/UK）、セーブ・ザ・チルドレン・スウェーデン/ノルウェー（SC/SN）と連携し、アフガニスタンにおいて教育復興支援を展開してきた。SCJは、貴基金から頂いたご寄附を、以下の活動を運営実施するための経費の一部に充当させて頂いた。

前年同様に2008年も、SCJは山岳農村地帯バーミヤン州において、SC/US及びSC/SNとの協力体制のもと、教育事業を実施した。まず、活動①として、学校教員を対象に、科目理解向上と校内体罰禁止を目的とした教員研修を実施し、学校教育の質の向上に努めてきた。

次に、活動②として、バーミヤンの子どもたちを対象に、教育を通じた保健・衛生・栄養の啓発事業を実施し、子どもたちの健康状態を改善させる取り組みを展開した。

最後に、活動③として、カブールとバルフとジュズジャンの3州において、初等教育のクオリティ向上事業を実施した。SCJが事業へのファンディングを担い、SC/UKが事業実施を担った。未就学の子どものための補習授業を開催したり、教員研修の実施、子ども委員の設置等を行ったり、それぞれの州の教育のクオリティの底上げ、そして子ども参加の機会提供を図った。



<活動地図> 緑の部分がSCJの支援地



3. 活動成果の紹介

活動① 教員の科目理解向上と校内体罰禁止を目指した教員研修事業

2008年2月から3月にかけて、バーミヤン州のサイガン郡学校教員計95名を対象に、科目理解向上及び校内体罰禁止のための研修を実施した。参加者が多かったため、デノラ村とオロチ村とカレハワル村の3地域に分けて研修を行った。研修を受けた教員たちは、講師や同僚たちから刺激を受けながら、教授法に関する新たな知識とスキルを着実に身につけることができた。研修成果としては、科目理解向上に関しては、研修前と研修後の各項目の平均点推移をみると、参加者たちの理解度が飛躍的に改善された。各科目の基礎固めと理解促進を果たすことができた。校内体罰禁止においては、教員たちは子どもの権利の基礎（i.e. 非差別・保護・参加・心身の発達の重要性など）や校内暴力禁止、生徒指導方法について理解を深めることができた。

小学校1-3年生の3科目試験

研修前と後との平均点推移



平均点詳細

	小学1-3年生の3科目試験			合計 平均
	ダリ語	算数	教授法	
デノラ村	93 (45)	76 (47)	96 (49)	88 (47)
オロチ村	85 (36)	82 (35)	77 (32)	81 (34)
カレハワル村	74 (38)	79 (31)	68 (29)	74 (33)
合計平均	84 (40)	79 (38)	80 (37)	81 (38)

()内は研修前のプレ試験結果平均点

小学4-6年生の4科目試験

研修前と後との平均点推移



平均点詳細

	小学校4-6年生の4科目試験				合計 平均
	ダリ語	算数	社会	理科	
デノラ村	88 (41)	59 (22)	59 (24)	49 (17)	64 (26)
オロチ村	90 (39)	86 (32)	87 (28)	82 (30)	86 (32)
カレハワル村	80 (31)	58 (18)	69 (25)	81 (39)	72 (28)
合計平均	86 (37)	68 (24)	72 (26)	71 (29)	74 (29)

()内は研修前のプレ試験結果平均点



小学2年の授業を受け持つジュラコル。研修を受けて、自信を深めた



生徒の理解度に沿ってわかりやすく教えるようになったというアブドラ。校内暴力をなくしていくことが課題だという

研修参加者の声

サイド・ヤヒヨ（40歳）

「研修を通して、理科とダリ語の教え方について知識を深めることができたよ。しかし、学校には教科書やノートが不足していて、その結果、授業が講義形式になりがちなんだ。そんな環境だから、私は画用紙にアルファベットやチャートを描いて、それを使って皆で学習できるように努めているよ。親たちには、子どもたちのために文具を買ってあげるように促したりもしている」



研修で、各教科の理解度を深めたサイド・ヤヒヨ。山積する学校教育の問題を解決するため、親たちへも働きかけている



小学校で授業を担当する19歳のモハマド

モハマド（19歳）

「私は10年生（高校1年生）までの学業を終えただけ。だから、まだまだ数学や科学の教科書内容の理解が足りないと感じる。本当は学業を続けたいけど、村には他に先生ができる人がいないんだ。他の先生と意見や知恵を共有して、問題解決に取り組んでいるんだ。女子生徒が少ない学校だけど、男女に関わらず、みんなが意見を言いやすい学級づくりに取り組んでいきたい」

活動② 保健・衛生・栄養教育事業

アフガニスタンの5歳未満児の死亡率（出生千対257人）は、世界で2番目に高く¹、日本の64倍に相当する。国民の約6割が食糧不足に直面し、5歳未満児の半数以上が発育不全という深刻な状態にある²。さらに、子どもの健康状態や教育状況と密接に関係する女性（15-24歳）の平均識字率はわずか18%と低迷³。こうした窮状を鑑み、教育活動を通じて子どもたちの保健・衛生・栄養の状況を改善する取り組みを試みた。保健・衛生・栄養に関する正しい知識を身につけ、子どもたちが感染症や微量栄養素の欠乏を予防することを目指す活動を実施した。

2008年11月から本事業を開始し、パーミヤン州中央郡4校区の学校生徒及び不就学の子ども約3,750名、学校教員約50名、親約375名を対象に活動を行った。各支援学校において、ビタミン剤補給や寄生虫駆除、教材配布等の啓発キャンペーンを実施したり、子ども・おとなを対象に、保健・衛生・栄養に関する各種研修を実施した。



Photo: Mats Lignell

セーブ・ザ・チルドレンが支援する学校内で絵やロールプレイを通じて、子どもたちは健康と栄養に関する知識を深めることができた



Photo: Mats Lignell

セーブ・ザ・チルドレンが支援する学校に手洗い場所が設置された

活動③ 初等教育のクオリティ改善事業

2008年、SCJはSC/UKと連携し、カプールとバルフとジューズジャンの3州の子どもたち約3,600名と学校教員120名を対象に、初等教育のアクセスとクオリティとシステムの向上を目指す事業を実施した。

a. 研修事業の実施

教員研修では、子どもの権利条約や保健衛生、子ども主体の教授法、ポジティブ・ディシプリン（子どもの主体性や自尊感情を重視した子育て手法）、チャイルド・フレンドリー・スクール運営などを網羅し、学校教員たちがこれらの知識についてきちんと理解し、質の高い授業と学級運営を行えるように支援を行った。同様に、民主的な学校運営方法、校内暴力禁止、子ども委員会の設置運営方法についての研修を、学校長や教育関係者向けに行った。

¹ Unicef, 2009, *The State of the World's Children 2009, Maternal and Newborn Health*

² UNDP, 2007, *Afghanistan Human Development Report 2007, Bridging Modernity and Tradition: Rule of Law and the Search for Justice*

³ Unicef, 2009, *The State of the World's Children 2009, Maternal and Newborn Health*

b. 子ども委員会の設置

事業地の公立学校計 23 校に対して、子ども委員会をそれぞれ設置した。その委員会の活動を通じて、生徒たちが子どもの権利について学んだり、学級新聞やラジオ番組を通じて自分たちの意見を教員や自治体関係者たちに対して表明する機会を享受することができるようになった。

c. 識字教室の実施

事業地 3 州に補習授業 60 教室を開催し、公立学校に通うことのできない不就学の子どもたちを対象に読み書きと計算の基礎を学ぶ学習機会を提供した。同時に、子どもの権利や子ども保護について学ぶ機会も提供した。補習授業を通じて、子どもたちは読み書きの基礎知識を身につけるようになり、学齢期の子どもたちの中には地元の学校に編入を果たす者もいた。また、識字学習を通じて、子どもたちは学習意欲を高めたり、自分への自信を深めたり、精神的な成長を促進する成果にもつながった。



Photo: Mats Lignell

セーブ・ザ・チルドレンが支援する補習授業で、読み書きと計算の基礎を学ぶ少女たち

d. 教材の配布

事業地 3 州の補習授業の教室に教材を配布した。生徒約 3,600 名分の文具と教員 120 名分の教材を配布し、生徒たちが文具・教材を用いて、読み書きを効率的に身につけることができるように学習環境を整備した。

◇◇◇◇◇◇◇◇

4. 今後の活動 ～これからも教育支援を続行～

2003 年から毎年、「藤原紀香アフガニスタン基金」によるご寄附を頂き、SCJ は紛争影響下にあるアフガニスタンにおいて教育復興支援を行ってきた。SCJ は、教育省や地元政府機関、国連やパートナー組織と協力して、紛争や貧困のせいで学校に通うことのできなかつた子どもたちに教育機会を提供してきた。

国内の教育アクセスを向上させるために、学校建設や識字教室、教育啓発活動、学校家具の整備を進める一方、学校教育のクオリティと安全性を底上げするために、学校教員研修や子ども委員会設置を支援してきた。

こうした現地での活動実績を最大限に活かし、SCJ は 2009 年以降も引き続き、他国のセーブ・ザ・チルドレンと連携を強化して、アフガニスタンの教育復興支援を継続していく。



セーブ・ザ・チルドレンが支援するパーミヤンの学校の授業風景。2008 年 3 月、1 年生として入学を果たした新入生たち

◇◇◇◇◇◇◇◇

5. 会計報告

SCJ は、貴基金から頂いたご寄附を、アフガニスタンの支援活動を運営実施するための経費の一部に充当させて頂きました。

収入		
2007 年繰越金	4,164,138 円	
2008 年寄付金 (1~12 月)	5,931,577 円	
2009 年寄付金 (1~3 月)	912,865 円	
合計	11,008,580 円	A
支出		
2008-2009 年 アフガニスタン事業運営費	10,663,075 円	
東京本部経費	345,505 円	
合計	11,008,580 円	B
差額 (A-B)		
合計	0 円	

<了>